

滝山城跡 【マップE2】

続日本100名城



南に古甲州道、東に川越道と鎌倉道が通り、北は秋川と多摩川の合流点を望む滝山城は水陸の交通の要衝に立地している。加住丘陵の複雑な地形と多摩川が削り出した河岸段丘を利用して築城された城郭は、巧みな縄張りや遺構の良好な保存状態から、全国屈指の中世城郭と評価されている。築城時期については、大永元年（1521）に大石定重が築城し、高月城から移ってきたとする記録があるが、定かなことは不明である。幾度も折れながら進む大手道、城の周囲に巡らせた深い空堀と大規模な曲輪の配置、2つの大きな池、二の丸の集中防御などのからくりが存分に体感できる。



滝山城本丸では発掘調査によって石敷の枡形虎口が発見されている



深い堀切に架かる引橋は大河ドラマの背景として使われたこともある



中の丸からは多摩川や狭山丘陵が見晴らせる



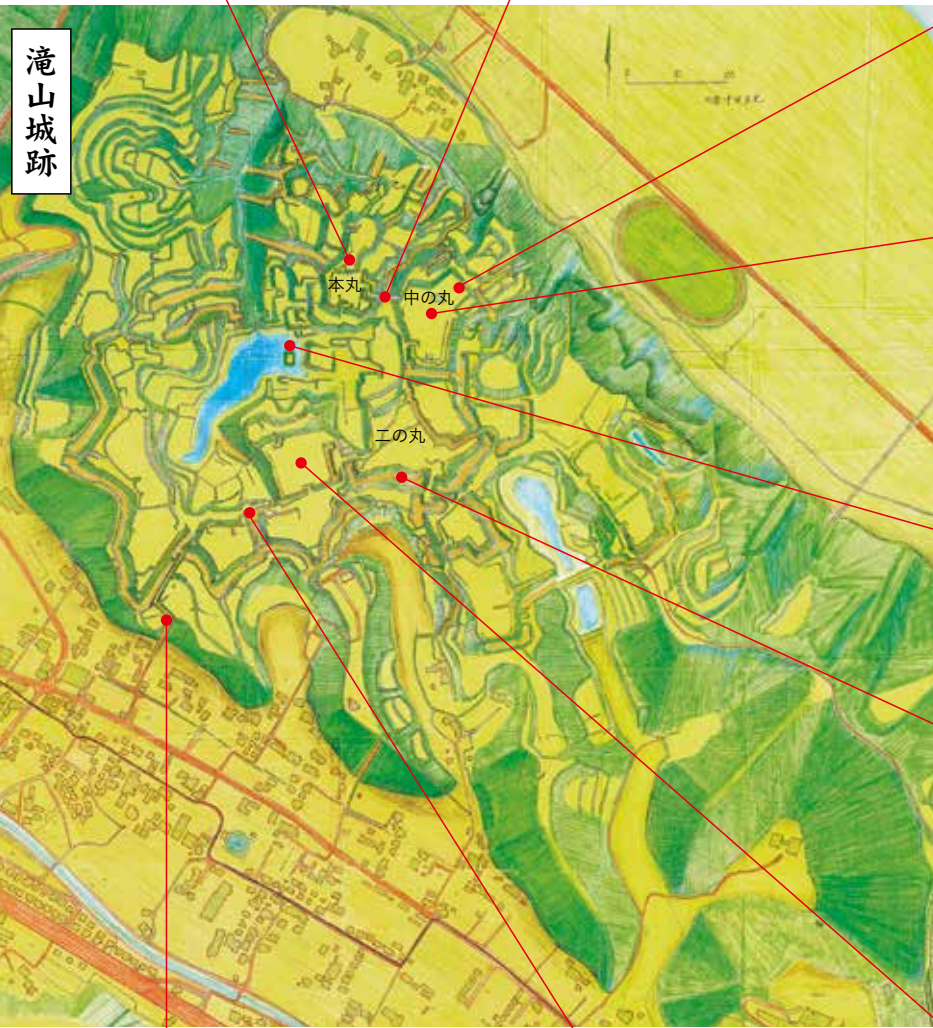
春に桜色に染まる中の丸には以前ここにあった国民宿舎の一部が残る



弁天池跡に小高く残るのは下草刈りで発見された弁天島跡



深く掘り下げられた二の丸南側の空堀と湾曲した土橋の遺構が美しい



大手口は屈曲と急坂の組み合わせで敵の侵入を防ぐ



堀や土橋により何度も方向転換をさせる大手道の巧妙な工夫



広大な平場の千畳敷には来客をもてなす会所が建っていたと推定されている